



ひまわり



桶川市青少年健全育成市民会議

第 39 号

平成28年1月1日（年1回発行）

発行 桶川市青少年健全育成市民会議

編集 桶川市青少年健全育成市民会議

広報発行委員会

事務局 桶川市教育委員会生涯学習文化財課

☎786-3211

✉shogai@city.okegawa.lg.jp



桶川小学校 5年 加茂 周悟
「家族でつりに」



桶川東小学校 6年 庭野 優香
「3人姉妹ですいかを食べよう！」



桶川小学校 6年 吉田 陽菜
「キラキラ笑顔」



桶川西中学校 2年 大谷 瑛里奈
「笑顔広がる 家庭の日」

家族の笑顔



私の幸せ

桶川東中学校 1年 松本 洸
「みんなの幸せ」



加納中学校 2年 渡邊 珠由
「みんなでドライブ」

平成27年度「家庭の日」
ポスターコンクールで優秀賞を
受賞された皆さんの作品です。
おめでとうございます。

(敬称略)



市民大会で開催された講演会より

薬物乱用防止について

埼玉県保健医療部薬務課薬物対策担当

大林 香澄さん

近年、薬物犯罪による事件や事故が多発しています。
今回の講師である大林さんは県内の小・中・高等学校
で薬物乱用教室を行い、その危険性についてお話され
ています。



危険ドラッグとは

薬物犯罪の検挙者は、ここ数年再犯者の割合が初犯者を上回るという現状から、①予防啓発、②取締指導、③回復支援が重要であり、最優先課題である、といえます。

とくに最近では『危険ドラッグ』のことが話題になります。これは覚せい剤や大麻と似た作用がある化学物質を含んだ薬物で、安価でインターネットなどで簡単に手に入るようです。

しかし、病院や薬局で処方される薬とは違い、『品質管理』という概念がないため、手に入れた薬物の品質は均一ではなく、安全とはほど遠いものであることがうかがえます。また、規制を逃れるために、化学構造の一部を変えた新たな物質が次々に出回るため、専門家は「乱用者自身が人体実験をして効能効果を試しているようなものだ」と言っています。

危険ドラッグ乱用者は、違法行為だという認識がなく、薬物に関する知識を持ち、知っているからこそ使ってみたいと思うのだそうです。ある物質に規制がかかれば、次の日には新たな製品が店頭に並ぶという、

言い換えれば『いちいちごっこ』のようです。

大人が子どもに伝えるべきこと

今回のお話を伺って、わたしたちは、子どもを育てていく上で、薬物乱用の恐ろしさや、もしも誘われた時にはきっぱりと断ることを教えていかなければならないのだと思いました。もし誘われたら、①はつきり断る、②その場を離れる(無視する)、③話題を変えろということをも具体的に伝えることが大切です。そして、もしも相談されたら、とにかく話を聞くこと、説教などは逆効果であり自暴自棄になるのではいけないと教えていただきました。

今、子どもたちはスマートフォンで簡単にインターネットに繋がりで、わたしたち(親)の知らないところで、知らない人と話することもできるのです。このような状況の中、子どもたちを正しい方向へと導くのは私たち大人です。「うちの子に限って」と真実に目をそむけることなく、非行の予兆に気付く親であるべきだと思います。そして、なぜ薬物乱用がいけないことなのかを、しっかりと説明できるようにしていきたいです。(西)

コバトン〇×クイズ

Q1	かぜ薬を飲み過ぎたら、「薬物依存」になることがある。
Q2	覚せい剤は「一度だけ使う」のであれば、大丈夫。
Q3	家族が病院でもらった「くすり」が余っていたので、自分が使ってみた。
Q4	危険ドラッグは、「警察につかまらないから、安全」だ。
Q5	危険ドラッグも覚せい剤も「過去に使っていても、使わなくなれば、心も体も元どおり」になる。

※「コバトン〇×クイズ」の答えは、三ページの下端に掲載しました。



桶川市青少年健全育成市民会議年間事業

桶川市青少年健全育成市民会議総会

五月二十四日（日）、桶川東公民館大ホールにて、平成二十七年（度）桶川市青少年健全育成市民会議総会が行われました。

総会に先立ち、「子どもを守るために地域で今日からできること」と題して、子どもの危機回避研究所の横矢真理氏に講演をしていただきました。子どもを被害者にも加害者にもしないために、わたしたち大人にできることについてお話していただきました。

その後、総会も滞りなく終了しました。（吉）

「継続は力なり」の精神で、青少年健全育成市民会議構成団体による非行防止キャンペーンが行われました。

非行防止街頭キャンペーン

1回目は7月6日（月）に桶川駅周辺で悪天候の中、リーフレットなどを配布しました。



市民まつり 非行防止キャンペーン

2回目は快晴に恵まれた11月3日（火）、市民まつりで風船やリーフレットを配布しながら大勢の市民の皆様に青少年非行防止の大切さを訴えました。（河）



第二十八回桶川市青少年健全育成市民大会

桶川市市制施行四十五周年記念事業として、平成二十七年十一月二十一日（土）に桶川東公民館大ホールで、「第二十八回桶川市青少年健全育成市民大会」が開催されました。開会行事に続き、「薬物乱用防止について」と題して、埼玉県保健医療部薬務課薬物対策担当の大林香澄さんよりご講演をいただきました。薬物が身近な存在になって来ている事を実感し、薬物の恐ろしさを知る良い機会となりました。

おかげわ 春のふれあいフェスタ

五月十六日（土）に駅西口公園と桶川市民ホールにおいておかげわ春のふれあいフェスタが開催されました。今年で六回目を迎えたフェスタの会場は、朝方まで降っていた雨も止んで最後まで開催することができました。これも皆、実行委員会を重ねてきました構成団体の皆様のおかげと心から感謝します。また、昨年からはじめた市民ホールでは、今年もオヤジバンドがリードしてあったかいリズムで汗を流していました。リズムが大事なんだ！と感じ至ったふれあいフェスタでした。（洪）

コバトン〇×クイズ ～ 答え ～

A1	○	具合が悪くなった時に飲む「いいくすり」でも、決められたとおりに飲まないと、具合が悪くなってしまう。
A2	×	一度だけでも覚せい剤など使ってはいけない薬物は使っちゃダメ。
A3	×	病院でもらうくすりは、「患者さん専用」です。他の人が飲むと具合が悪くなってしまうよ。
A4	×	危険ドラッグは、何が入っているかわからないよ。危険ドラッグを使って、死んじゃう人もあるんだ。
A5	×	一度壊れてしまった脳は、もう元に戻らないよ。薬物を使わなくなっても、その影響はずっと続くんだ。



その後、「青少年育成功労賞」、「善行賞」の表彰が行われ、さらに市内の小・中学生が真剣に取り組んだ「私たちの主張」作文コンクール、「家族の日」ポスターコンクールの表彰と、作文コンクール優秀賞作品の朗読が行われました。（小）

コンクールの入選者が表彰されました

青少年育成功労賞表彰



十一月二十一日に開催された市民大会で行われた表彰式では、青少年の育成に顕著な功績のあった個人や団体の皆さんに「青少年育成功労賞」が、青少年の模範となるようなあらゆる善行を行った青少年に「善行賞」が授与されました。また、市内小・中学校の児童・生徒が夏休みに取り組んだ「私たちの主張」作文コンクールでは322点の応募があり、「家庭の日」ポスターコンクールでは175点の応募があり、それぞれ12点の入賞者の表彰も行われました。そこで、表彰された皆さんや作品を紹介し（敬称略）ます。

●個人の部

桶川ヤンキーススポーツ少年団

小山正二郎

おけがわわんぱく交流野球大会

熊谷 健

桶川サッカースポーツ少年団

古藤 健明

鴻巣地区保護司会桶川支部

稲元 剛

峰心会桶川空手道スポーツ少年団

袴田 智之

桶川合気道連盟

工藤 陽一

善行賞表彰



I・K・O 剛柔流桶川空手道会

●団体の部

桶川イブニングロータリークラブ

桶川地区更生保護女性会

岸 まさ子

ボーイスカウト桶川第1団

松田 博子

日出谷スターズスポーツ少年団

上田 繁樹

桶川レッドサッカースポーツ少年団

高橋 秀樹

桶川市薬剤師会

増田 栄一

桶川市子ども会育成連絡協議会

寺久保玲子

埼玉県立桶川高等学校

女子バスケットボール部

コンクール 優良賞作品

「家庭の日」ポスターコンクール入選者



桶川東小学校 6年 内田 空良
「弟の誕生日」



加納小学校 6年 神山 波音
「家庭の日」



「家族みんなで おやつタイム」
桶川西中学校 3年 田山 志歩



朝日小学校 6年 北田 桜大
「家庭の団らん」



青少年育成功労賞、善行賞、作文・ポスター



「私たちの主張」作文コンクール入選者



優秀賞

あこがれから夢へ

加納小学校六年 平井 七美

え顔にかこまれたしようなのわたし

加納小学校四年 進藤菜々美

平和について考えよう

桶川小学校六年 名和 歩実

挨拶から始まること

加納中学校三年 岩崎 結衣

理想の自分に

桶川西中学校三年 須藤 薫美

相手をおもう気持ち

加納中学校二年 小柳 優衣

講評

作文には、自分の夢や平和について、また、環境やいじめについてなどニュースや体験をもとによく考えて書いてありました。

家庭の日のポスターについては、家族のありがたさや良さ、素敵なひとときなどが豊かに表現されていました。

皆さんの考えや思いは、文や絵という形で会場にいらっしゃるたくさんの人たちに伝わりました。(小)

優良賞

ちかい

桶川小学校四年 小原 禾怜

いじめのない世の中に

桶川東小学校五年 三枝 心優

きれいな世の中へ

川田谷小学校五年 高橋 瞳実

将来の夢

桶川西中学校二年 齊藤 茉南

戦争のない世の中へ

桶川西中学校一年 齋藤 晴輝

私の学校生活

加納中学校一年 須佐もえ花

ポスター

「本からでてきたこと」

桶川東中学校 1年 丸山 雄生



桶川西中学校 3年 三村 莉杏
「大切な日 家庭の日」

埼玉県知事より表彰

十一月十四日にさいたま市文化センターで県民の日記念式典が行われ、桶川市青少年健全育成市民会議会長である渋谷光章さんの長年の功績が認められて、児童・青少年育成功労者として埼玉県上田知事から表彰されました。

青少年育成埼玉県民会議会長より表彰

青少年育成埼玉県民会議の表彰式が十一月十六日にさいたま商工会議所会館で行われ、桶川市青少年健全育成市民会議運営委員の湯浅哲朗さんが「青少年育成功労賞」を受賞し、県民会議会長の上田知事から表彰されました。

桶川市より表彰

十一月七日に桶川東小学校体育館で、桶川市市制施行四十五周年記念平成二十七年度表彰式典が行われ、桶川市青少年健全育成市民会議が児童及び青少年の健全育成に貢献し、その功績が特



に優れたものとして桶川市から表彰されました。

また、同会議副会長の政輝靖さんが教育、文化、芸術、体育関係団体の役員として尽力したのとして市から感謝状が贈られました。

親子ふれあいウォーク

加納・川田谷

平成二十七年十月十日（土）に加納地区で、十月二十四日（土）には川田谷地区で、親子ふれあいウォークが開催されました。加納地区では七十七名、川田谷地区では百五名が参加しました。

加納地区では、桶川東公民館をスタート&ゴール地点とし、べに花ふるさと館、氷川天満神社、後谷公園、加納小学校、坂田弁天公園を周りました。途中のべに花ふるさと館では、オケちゃん写真撮影をし、それぞれのチェックポイントでは、係員にスタンプを押してもらい、クイズを解いて、百点を目指して歩きました。この日は雨の心配もなく、うすい曇



り空のもと、歩き続けても汗をかく程ではなく、気持ちの良いウォーキング日よりでした。

それから二週間後、川田谷地区では農業センターをスタート&ゴール地点とし、歴史民俗資料館、三田原集会所、泉福寺、熊野神社古墳、薬師堂集会所を周りました。こちらもスタンプを集めて、クイズを楽しみながら進みました。この日は快晴で暑く、日焼けしてしまう程で、皆さん汗をぬぐいながらのウォーキングでした。

川田谷地区では桶川市子ども会育成連絡協議会の皆さんによる豚汁も待っていて、ゴールの後に美味しくいただきました。

途中で撮影をした写真は、印刷・ラミネート加工をして、参加者全員にゴール地点で、記念品としてプレゼントしました。

当日、ウォーキングの途中では、加納小PTA、子ども会、地域の皆さん、青少年相談員さん、ジュニアリーダーさんにお手伝いして頂きました。安全への気配り、名簿チェックやスタンプ、クイズの答え合わせなど、ご協力ありがとうございました。（対）

ひまわりのつぶやき

★産湯につけていただき、食べさせていたいたのは誰かを感じてほしい。「生きてさえてくれれば由」と親は願っているのだから。（洪）

★毎日の生活を普通に過ごせる幸せを実感した今日この頃。家族や支えていただいている周りのすべての方に感謝。（小）

★今の世の中、本当に便利だと思う。でも、不便なことを体験してこそ工夫することを感じる。だからもう、このくらいでいいと思うな。（西）

★作文コンクールやポスターコンクール、今年も優秀な作品が多く集まりました。作品を出品した子どもたちの素直な心が伝わってきました。（新）

★子育てに正解はない、と思いつつ

編集後記

桶川市青少年健全育成市民会議では、子どもたちの自立と成長を援助し、心豊かでたくましい成長を図るため、本年度も数々の活動を実施して参りました。本年度の活動をここにまとめあげることができました。スマートフォンとの普及に伴うインターネット内の問題点や薬物に関する危険など、青少年へ悪影響を及ぼ

も悩み、相談しながら子どもと向き合う毎日。子どもの全てを知ろうとし、気にかける。でも時間には限りがある。子どもが大人になった時、相談相手に選んでくれる様でありたい。（対）

★ネットと切り離す事が出来ない現代、子育てに迷った時は上手に利用しましょう。でも待つてください！あなたの周りには子育て経験者が沢山います。（河）

★自分の歩む道をみつけれ、日々頑張る三人の成人した子どもたちが、生まれてきてからずっと、私は彼らから勇気をもらい、支えられてきたのだな、最近気がつきました。（吉）

●本誌は、市民会議の構成団体であるPTA、ガールスカウト、教頭会などから選出された皆さんが、編集に携わっています。

す可能性がある心配事は、年々複雑さを増しています。現代社会が抱える問題は大人たちが解決していかなくてはなりません。

わたしたちは、「青少年は地域で守り育てる」ために、今後とも家庭・地域・学校が連携し、子どもたちを温かく見守っていきける地域社会を目指します。今後も皆様からたくさんのご協力をよろしくお願い申し上げます。（新）